

# U.S. Indicators

## 米国 良好なマインドは消費を促す要因に(17年3月CB消費者信頼感指数)

: 2017年3月30日 (木)

～景気・雇用の現状、先行きともに楽観的～

第一生命経済研究所 経済調査部  
桂畑 誠治  
03-5221-5001

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数									ミシガン大学消費マインド		
	期待指数		現状指数	雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		期待	現状	
	12ヶ月	3ヶ月		充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅			
16/03	96.1	83.6	114.9	25.4	25.2	14.7	9.5	11.8	6.3	91.0	81.5	105.6
16/04	94.7	79.7	117.1	24.2	22.8	13.8	10.8	11.8	5.3	89.0	77.6	106.7
16/05	92.4	78.5	113.2	24.5	24.5	15.0	11.7	12.7	5.9	94.7	84.9	109.9
16/06	97.4	84.6	116.6	23.2	23.7	16.6	11.2	12.7	4.8	93.5	82.4	110.8
16/07	96.7	82.0	118.8	23.0	22.1	15.7	12.4	11.1	5.1	90.0	77.8	109.0
16/08	101.8	86.1	125.3	26.8	22.8	17.6	11.4	12.3	6.9	89.8	78.7	107.0
16/09	103.5	87.2	127.9	27.6	22.3	17.0	10.8	12.5	5.9	91.2	82.7	104.2
16/10	100.8	86.0	123.1	25.3	21.7	16.4	11.8	13.4	5.5	87.2	76.8	103.2
16/11	109.4	94.4	132.0	27.8	21.2	16.4	9.9	12.8	6.8	93.8	85.2	107.3
16/12	113.3	106.4	123.5	26.0	22.7	24.7	8.9	13.9	6.7	98.2	89.5	111.9
17/01	111.6	99.3	130.0	27.1	21.1	22.9	10.8	12.5	5.7	98.5	90.3	111.3
17/02	116.1	103.9	134.4	26.9	19.9	23.9	10.5	13.7	6.5	96.3	86.5	111.5
17/03	125.6	113.8	143.1	31.7	19.5	27.1	8.4	14.1	6.0	97.6	86.7	114.5

**3月のCB消費者信頼感指数は、前月比+9.5ポイント上昇し、00年12月以来の高い水準**

3月のCB消費者信頼感指数は、125.6(前月116.1)と前月比9.5ポイント上昇し、00年12月以来の高い水準となり、市場予想中央値の114を大幅に上回った。現状指数が143.1と01年8月以来、期待指数が113.8と00年9月以来の高い水準。景気の現状を示す調査では、雇用、所得が良好なうえ、景気の先行きを示す調査でも、景気、雇用、所得の見方が楽観的となっている。また、金利や株価が上昇すると見方が増加している。さらに、自動車、住宅、家電などの購入計画も前向きになっている。以上のような良好な消費者マインドは、消費を支えると予想される。

**現状判断では「雇用」、「景気」がプラス幅を拡大**

内訳では、現状指数が前月比+8.7ポイント上昇、期待指数が同+9.9ポイント上昇した。現状指数は、雇用情勢の一段の改善を示した。また、期待指数は景気・雇用・所得の先行きに対する楽観的な見方が強まり上昇した。

現状指数の構成項目では、「景気」、「雇用」がプラス幅を拡大し現状指数全体は上昇した。詳細をみると、現在の雇用環境に対する楽観的な見方が強まった【現在の雇用機会に対する判断の「充分」-「困難」が+12.2と前月の+7.0からプラス幅を拡大】。失業率の若干の低下を示唆している。さらに、現在の景気に対する楽観的な見方が強まった【現在の景気に対する判断の「良い」-「悪い」が+19.3と前月の+14.9からプラス幅を拡大した】。

**期待では「景気」、「雇用」、「収入」がプラス幅を拡大**

期待指数の構成項目では、「景気」、「雇用」、「収入」がプラス幅を拡大したため、期待指数全体は上昇した。詳細をみると、景気の先行きに対する楽観的な見方が強まった【6ヵ月後の景気に対する見方の「良くなる」-「悪くなる」が+18.7と前月の+13.4からプラス幅を拡大した】。また、雇用の先行きに対する楽観的な見方が強まった【6ヵ月後の雇用に対する見方の「多くなる」-「少なくなる」が+12.6と前月の+7.3からプラス幅を拡大】。さらに、先行きの収入について楽観的な見方が強まった【6ヵ月後の収入が「増加する」-「減少する」が

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

【+14.5と前月の+11.1からプラス幅を拡大】。

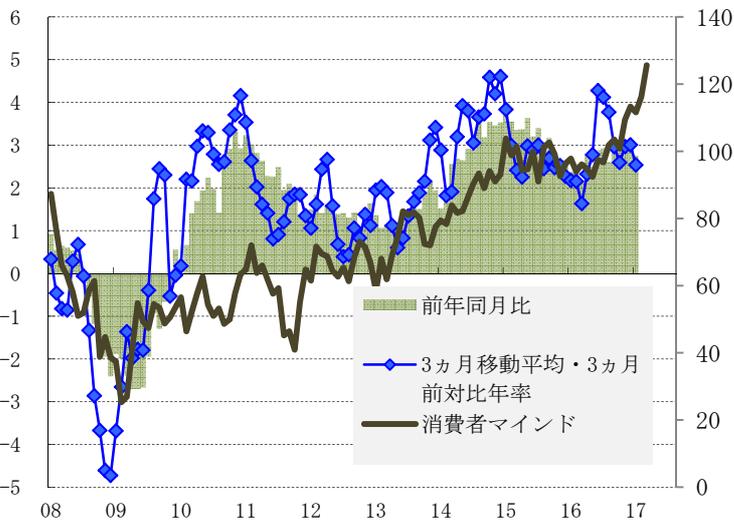
**インフレ見通しは緩やかに低下、株価・金利見通しは上昇を見込む向きが増加**

インフレに関する調査では、3月のインフレ見通しは4.6%（前月4.8%）と緩やかな低下傾向にある。また、1年後の金利見通しでは景気の先行きに対する楽観的な見方が強まったことから、金利が上昇するとの見方が前月から増加した。株価の先行きに対して上昇するとの見方を強めており、消費を押し上げる要因となろう。

**当面消費者マインドが高い水準を維持し、個人消費は堅調さを保とう**

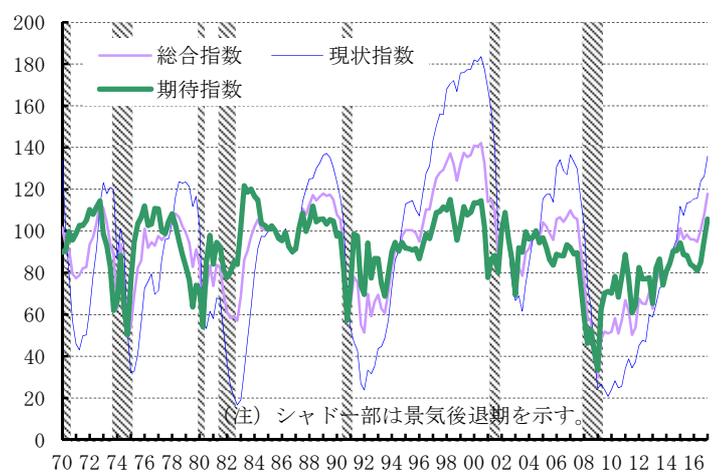
今後、景気の緩やかな回復が続く中、雇用の堅調さなどを背景に、現状指数は安定し高い水準で推移すると見込まれる。一方、期待指数は先行きの景気加速、雇用拡大期待が強いとみられ、緩やかに上昇すると予想される。このため、消費者マインドは高い水準での横ばい推移が予想され、個人消費は堅調さを維持すると見込まれる。

(%) (図表) 実質個人消費の推移



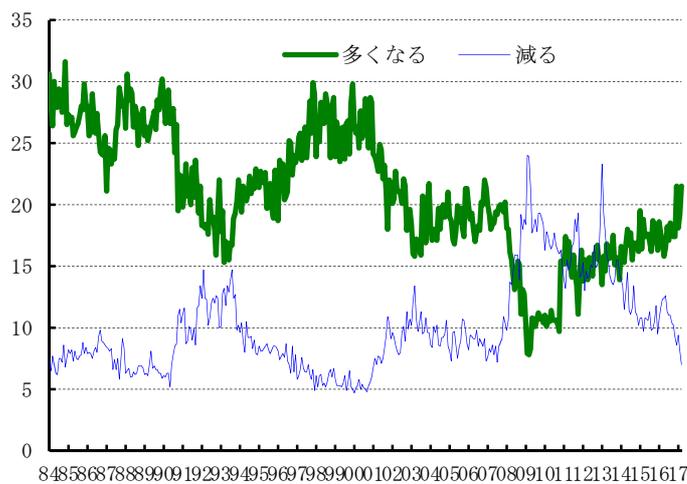
(出所) 米商務省データより作成

消費者信頼感指数の推移(四半期)

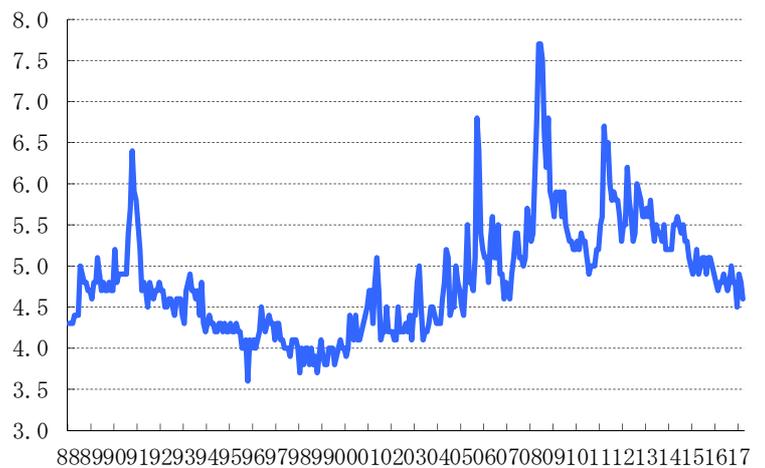


(注) シャド一部は景気後退期を示す。

(%) 6ヶ月後の収入見通し



(%) 12ヶ月後のインフレ見通し



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。